

都道府県番号	18
都道府県名	福井県

()

・学校名及び規模

大野市開成中学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	4	5	4				2	15	32	
生徒数	122	161	135				6	424		

・実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

<p>・主題（テーマ） 生徒が自ら課題をつかみ，追求し解決する中で，確かな学力を培う授業づくり</p> <p>・テーマ設定の趣旨 生徒一人ひとりの自ら学び考える姿勢を大切にするには，自分がたどった過程を振り返らせることが必要な要素の一つである。解決が上手くなされる場合もあるし，失敗する場合もあるが，どこがよかったか，どこが足りなかったかを自己評価したり，他者から評価されたりすることは，次の課題解決への方策や意欲付けにつながると思われる。</p> <p>さらに，「確かな学力を身につけさせるための個に応じたきめ細かな指導」について，研究を深めるために，生徒自身が各種の課題に対して，それを解決するための見通し（計画）を立てることや自己の学習過程を振り返らせることに重点をおいた授業づくりを目指し，一人ひとりが「確かな学力」を身につけていけるように本研究テーマを設定した。</p>
--

・実践研究の内容について（選択した観点を中心に記述）

（ ）研究体制の工夫

学習づくり研究部において，学力を「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」と考え，それらをバランスよく身に付けることが大切であるという共通認識をもった。

本年度は，「学ぶ力」すなわち「学び方」に重点を置いて研究することとした。

（ ）実践研究の内容

国語科の取組み

テ ィ マ 「説明的文章及び文学的文章における読みの手立て」

～要旨や主題に迫る読みができるようになるために～

コンセプト イ 主体的な「一人学び」の姿勢を作る

ロ 個人にあった「学習の仕方」を学ぶ

ハ そのために必要な教材を考える

説明的文章の読み（第1学年 四．暮らしを見つめる 光村図書）

（教材文；『自然の小さな診断役』（前教科書）『魚を育てる森』を用いて）

1．要旨に迫る読みをするために，3種類の学習の進め方のモデルを提示

《お助けシート》教材1

じっくり読み（その手順）

通読 語句調べ 形式段落ごとの要点 一般化の段落を押さえる

段落の構成（内容のまとめり） 要旨 自分の意見

あっさり読み（その手順）

通読 語句調べ 筆者の疑問調べ 疑問の解決 一般化の部分を押さえる
要旨 自分の意見

スーパーあっさり読み(その手順)

通読 一般化の部分を押さえる 論旨の展開を要約 自分の意見
(語句調べはその都度)

上記の ~ の学習の進め方のモデルを分かり易く書いたものに、下記の工夫を付け加え、個人の学習をデザインさせた。

(工夫)

- ア 題名をふくらませて、筆者の見解を読み取る
 - イ 数量を置き換えてイメージ化する
 - ウ 図示、表作成によるイメージ化をする
 - エ 5W1Hをとらえる
 - オ キーワード、キーセンテンスをとらえる
 - カ 問題提起、それについての答えをとらえる
 - キ 具体例や実験・調査、結果などと筆者の考えを分ける
 - ク 同じテーマについて書かれた他の文章を読み、理解を深める
 - ケ 接続語や指示語を理解に役立てる
 - コ 意味段落ごとに分けて、小見出しをつける
 - サ 文章全体の構成をとらえる
- 序論(はじめ)本論(なか)結論(終わり)の三分法の場合が多い

2. 要約や要点をとらえるためのモデルを提示

《要点をとらえる秘伝の技シート》教材2

技一、指示語を生かした文の要約の仕方

技二、段落中の文の内容をとらえて、全てを包含している文を選択する仕方

技三、文がいくつもあって、うまく要約できない場合は、ここで言いたいことを「何が - どうする」「何が - どうだ」といった短文で書き、必要と思われる言葉を付け足す仕方

() 成果と課題

二つの説明文教材を用いて、最初の教材文で学習の仕方を学ばせ、次の教材分で自分の学習の進め方を自分で決定させることで、学習を進めさせた。最初の教材文で学習の仕方を学ばせたときは、かなり時間を要したが、次の教材文に進んだときは、スムーズに自分の学習の進め方をデザインできた。また、目的の達成にかける時間にばらつきが生じたが、TTという学習形態の中で進めさせることで、個に応じた指導ができることがはっきりした。全員の到達点は要旨を捉えることであるが、その到達点に向かう方法は様々であり、また、それに要する時間も生徒によって異なる。教師のほうで計画した時間と、その中で全員が到達すべき目標を生徒に示し、早く到達した場合は次の発展的な課題に進めさせることもできる。この学習では二番目の教材文に進んだときは、全員の到達目標に進むまでに、速い生徒と遅い生徒で三時間の開きが出た。速く進んだ生徒はそのあと、同テーマの他の文章を読んだり、新聞記事を見つけたりして、自分の考えを深める時間を持つことができた。

課題を出されたときに、どうすれば課題解決に向かうことができるかという方法を身につけさせるために、モデルとして《お助けシート》を示したことは非常に有効であった。また、要点や要約

をさせる上で《要点をとらえる秘伝の技シート》を使ったわけであるが、いくつかの文を短くまとめさせる点で有効に働いた。

国語科にとって、どのような教材が必要か。それは、生徒が学習方法を身につけるために必要なもの、つまり「こうすればできる」と実感させられる教材でなくてはならない。できればその学習方法が、他のものにも一般化できるものであることが理想である。

今後も生徒が学習方法を身につけることのできる教材を考えていきたいが、同時に自己分析力を身につけさせるものも考えていきたい。つまり、自分の進め方が目標到達に有効であったかどうかを振り返ることのできるものである。その二つがうまくかみ合ったときに生徒の力を伸ばすひとつの手立てが完成するのではないかと思われる。

() 成果の普及方策

公開授業の実施 平成15年6月18日(水)

ホームページの開設

学習指導案や開発した教材等、本校の取り組みを総合的に発信する。

() その他

すぐに作れる自作教材とその活用実践の紹介(理科)

生徒の実体験を重視し、実験・観察を可能な限り取り入れて理科の授業を展開している日々であるが、どうしてもミクロ的な世界、マクロ的世界の学習については限界がある。また、そのような世界の学習には、どうしても抽象的が概念が取り入れられたり、時間的・空間的な思考がからんでくることが多いため、生徒の理解も十分ではない。

そこで、今回、そのような単元(教材)の一例として、『惑星の動きと見え方』を取り上げ、効果的に疑似体験ができる自作教材の紹介と、コンピューターとの併用でのその活用実践を紹介する。

『惑星の動きと見え方』地球と太陽系(旧啓林館2分野上教科書)

『複雑な動きをする惑星』

『すがたが変化する金星』地球と宇宙(新啓林館2分野下教科書)

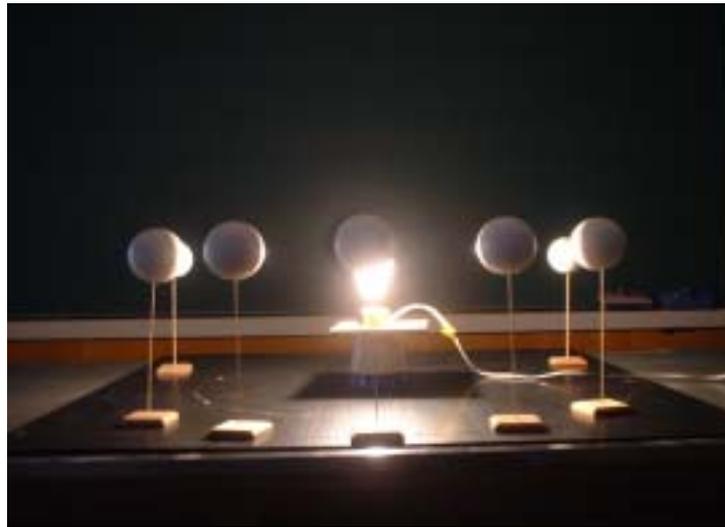
1. 『惑星の動きと見え方』を疑似体験する自作教材を作る。自作教材づくり

A. <写真1>のように、観察用金星を最低8個作る。



<写真1>

B. <写真2>のように、中央に裸電(100W)を適当な高さに置けば、日中でも十分に満ち欠けが観察できるので、驚かされます。



<写真2>

2. 自作教材作とコンピューターの併用して授業を展開する。

啓林館指導書付録(CD)
コンピューターソフト集
2分野Windows版

Getsデータ



惑星

開成中学校では、平成14年度2学期より各理科室にコンピューターが4台ずつ常設された。入れ替えによる旧コンピューターではあるが、左に示すソフト集を活用するには十分である。

自作教材によって、満ち欠けが疑似体験できるが、学級全体か、グループ単位での一斉観察のため、一人一人がどれだけ正確にとらえているかは疑問である。そこで、「左のソフト集での確認」と「自作教材での観察」を反復することで、個々の理解および定着をはかった。

金星の見え方の学習では、時間的・空間的思考の上に、さらにそれを図で表現して答えるという技能面がある。自作教材による観察で、時間的・空間的思考がかなり容易になり、コンピューター

ソフト集が図で表現して答える技能の確認になったと考える。また、この取り組みで、従来よりも個別指導がしやすくなったと感じた。